「英語ディベート」への道のり ～舞台裏と生徒の成長編～

福島県新地町立尚英中学校 八木 一真

0　はじめに

本田大輔先生のレポートでは、東京都北区立飛鳥中学校と福島県新地町立尚英中学校がオンラインマイクロディベートを実施するまでのプロセスや、その舞台裏が詳細に記されていました。本レポート(＝成果物)は、「オンライン・マイクロディベート」という活動に向けて、１回目(7 月)の交流の後に生徒たちがどのように成長していったかについて、場面裏も含めてお伝えしていきます。

さて、このレポートを読んでいただくにあたって、先生方にお尋ねしたいことがあります。昨年度、中嶋先生から私たちオンライン塾生に投げかけられた質問です。

「皆さんにとって成果物とは何ですか。」「成果物は何のためにありますか。」

以下は研修ノートに記されていた(2023 年度初めの)私の答えです。

「成果物とは何ですか」→ ①卒業スピーチをさせて、感想を書かせる。②ディベートをさせる。
「成果物は何のためにありますか。」→ 生徒の英語力を伸ばすためにある。

読んでいて何だか悲しい気持ちになります。全て、教師目線(＝利己)の答えになっています。
昨年度の終わりに、中嶋先生は以下の言葉を私たちに残してくださいました。
本田先生と私は、成果物について考えるときに、いつもこの言葉を大切にしています。

「人を幸せにすることが私たち教師のライフワークであり、それが実現されたものが成果物です」
「皆さんの成果物で、誰かを幸せにしてください」

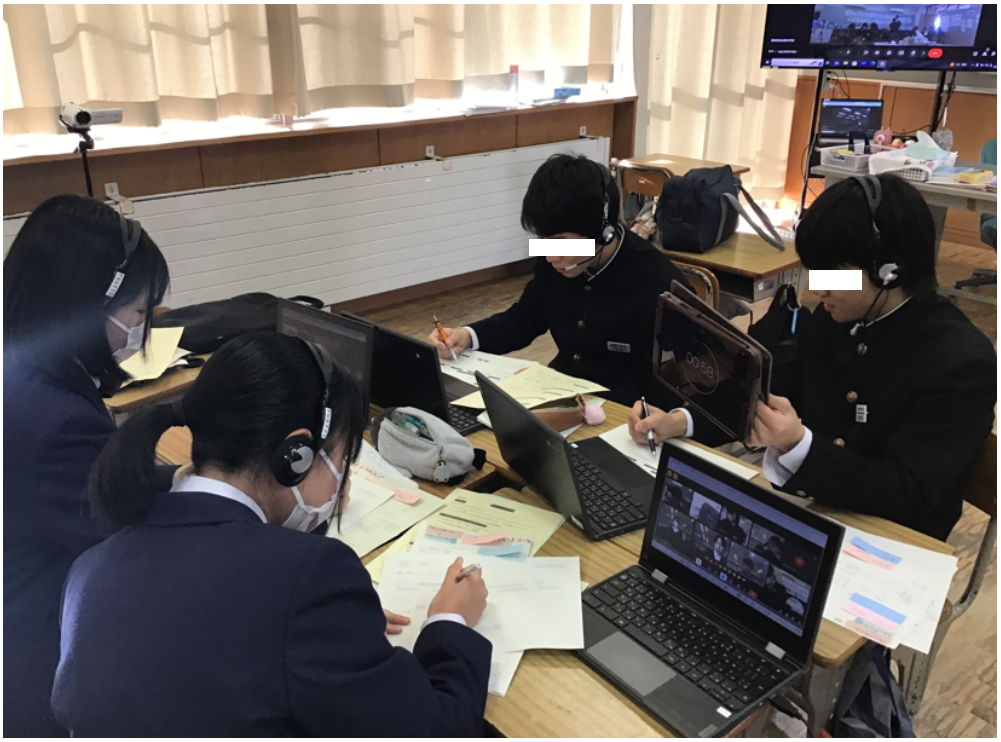
このレポートを読んでいただいた方が幸せになることを願って…

本レポートの構成について

1　交流の終わりが新たな始まり
2　目標を共有することが「扇の要」に
3　オンライン・ディベートを行うための布石
4　オンライン・ディベートに向けて～学びは自分の教室だけではない～
5　オンライン・ディベートを通じて生徒たちが学んだこと
6　終わり方が大事～感謝の気持ちを相手に伝える～

1　交流の終わりが新たな始まり

次の写真は、2024 年 7 月 11 日、尚英中学校 3 年 2 組の教室の様子です。



飛鳥中との交流授業を終えた尚英中の生徒たちの表情は充実感に満ちていました。教室内から生徒たちの声が聞こえてきました。
「緊張したけど、沢山話せて楽しかった。」
「しっかりと準備してきたことを伝えられてよかった。」
「今度は違う人とも話してみたいな。」

私も生徒たちと同じように、交流を無事に行えたことに達成感を感じていました。その日の夕方、生徒たちが書いたアンケートを読み返していると、私はあることに気が付きました。
「即興でのコメントがうまくいかなかった」と振り返りアンケートに答えている生徒が予想以上に多かったのです。私はアンケートの中で次（4）のように尋ねました。それに対する生徒の答えはどうだったでしょうか。

4 オンラインで「修学旅行レポート」のスピーチと QA をしました。実際に本番をやってみて、気づいたこと、学んだこと、次回もう一度やるならこうする、ということはありますか？

生徒はこう書いていました。

即興で相手に質問をすることがあまりできなかったので、もう一度できるなら即興で質問をできるようにする。

すぐにコメントを返したり、質問に答えられないことがあったため、コメントの練習と、QAの強化をしてからもう一度挑戦したい。

その場でレポートを聞き、その感想を言うことは練習よりも難しく、緊張でどもってしまうこともありました。もう一度あるなら、感想のパターンなどをもっと考えてから挑みたいと思いました。

相手に分かるように、ゆっくり言ったり質問文を言ったりすることができましたが、コメントなどにつまづいてしまったりしてしまいました。もう一度やるなら、前回よりスムーズに言ったり、質問をすぐに言えるようにしたいです。

「生徒たちはこんなに即興のコメントに不安を感じていたのか…」「私は、正しい山に生徒たちを登らせることはできているのだろうか…」

不安がよぎりました。２学期には、「私の尊敬する人」のスピーチと「マイクロ・ディベート」で、再び飛鳥中の生徒たちと交流授業をすることが決まっていたからです。どちらの活動も非常に高度な英語力が必要となります。

「私の尊敬する人」のスピーチでは、「修学旅行のレポート」とは違い、一人一人の考え方や生き方がメッセージとなって表れます。相手が伝えたいメッセージを正しくキャッチし、即座に適切なコメントをする必要があります。そのためには、生徒の「相手意識」を育てることが欠かせません。「マイクロ・ディベート」では、立論や反駁の中で相手が納得できるような主張とその根拠をテンポよく伝えていくことが要求されます。

難しい言い回しを使わず、習った英語で説得力のある主張ができるように彼らを鍛えていかねばなりません。特に、ディベートでは多面的に物事を捉えることや、論題について定義をきちんと踏まえて理解し、それに基づいて主張することが肝になります。

「このままでは、次の交流授業では自信を失い、多くの生徒を失望させてしまうかもしれない」ふと、ネガティブな感情がこみ上げてきました。しかし、生徒のアンケートをじっくり読み返しているうちに、「即興のやり取りに対する不安」を抱えつつも、飛鳥中の生徒たちとの交流を楽しみにしていることがわかりました。たとえば、次のような意見です。

５ コラボをしてみて、「こんなことがしてみたい」「こういう工夫をしてみてほしい」という要望はありますか？

相手の学校の人とのことをよく知りたい。たくさん雑談をしたい。1対1だけでなく2対2やグループなどでディベートをしてみたい。

ディベートなどのお互いの英語力を高められるようなことをもっと
できたらいいと思う。
ずっと同じ相手ではなく、様々なペアと行ってみたいです。
また、今回はスピーチとQAでしたが、agree, disagree
(ディベート)などの話してみたいです。

生徒たちは、純粋に飛鳥中の生徒との交流を心から楽しんでおり、やったことのないディベートにも真正面からチャレンジしたいと望んでいたのです。「よし、やろう。生徒たちと一緒にまだ見ぬ景色を見てみたい。」交流が終わったその日から、私は２学期の交流授業に向けて構想を練り始めました。

２　目標を共有することが「扇の要」に

本田先生のレポートには、**「つけたい力」と「育てたい生徒像」を思い描くことがスタートである**と記されています。実際に、本田先生と私は、「つけたい力」と「育てたい生徒像」について話し合い、それを共有し、夏休みにミーティングを開き、指導の具体や進捗状況を確認していきました。交流授業に向けて、私たちは次のような目標を立てました。

◆「私の尊敬する人」のスピーチを通じて生徒に身に付けさせたい力（飛鳥中）

福島の尚英中の生徒に伝えたい「私の尊敬する人物」を紹介するために、出来事を時系列に整理し、事実や自分の考えを、**相手目線に立って**まとまりのある文章を書くことができる。また、何度も推敲し、仲間の作品に触発されて**自分にしか書けない手紙**を書くことができる。

（尚英中）

東京都北区立飛鳥中学校の生徒に「私の尊敬する人物とメッセージ」を伝えるために、出来事を時系列で整理し、**自分の考えを相手にわかりやすい表現**で伝えることができる。また、最終動画を通して、**自分にしか伝えられないメッセージ**を相手に届けることができる。

◆「マイクロ・ディベート」を通じて身に付けさせたい力
（飛鳥中・尚英中共通）

物事を論理的・多面的に捉え、複眼的思考ができる。また、**相手の主張を正確に理解し、共感や譲歩できる点を伝えながら**、自らの主張をアサーティブに言うことができる。最後に、それらをまとめて筋の通ったレポートを書くことができる。

飛鳥中と尚英中に共通していることは何でしょうか。
それは、「相手意識」です。

昨年度、私たちは、中嶋先生から「相手意識」の重要性について学ぶ機会が数多くありました。
「相手意識」について、国語辞典には次のように書かれています。

文章や会話などの受け手がどのような人であるかを気にすること

どんなに立派な文を書いても、相手にとって理解しやすく、納得できる内容でなければ、それは「相手意識」があるとは言えません。ディベートで一方的に主張を繰り返しても、相手が納得できるような伝え方をしていなかったり、相手の主張を受け止めたりする姿勢がなければ、「はい、論破」のような冷淡な終わり方になってしまいます。

交流授業で相手になる生徒は、普段一緒に生活をしているわけではありません。育った環境、これまでに学んできたことに違いがあります。交流授業を通じて、生徒が「相手意識」をもったコミュニ

ケーションができることを願って、私たちは実践の第一歩を踏み出しました。

以下の生徒のコメントをご覧ください。どちらも同じ生徒が書いたコメントです。交流授業を通して生まれた変容に気づくことができます。

1学期

1 尚英中学校/飛鳥中学校とのコラボ（自己紹介を送り合う/修学旅行レポートとQAをオンラインで実施する）からあなた自身が気付いたこと、学んだことはなんですか？

いつものメンバーとは違く、新しいメンバーとの交流だったので緊張しました。特に今回のパートナーだったなつみちゃんは、発音が良くて聞きやすかったり、文がスラスラ出てきて尊敬できる部分がたくさんありました。次は、もっと自分のレベルをあげて挑みたいです。

2学期

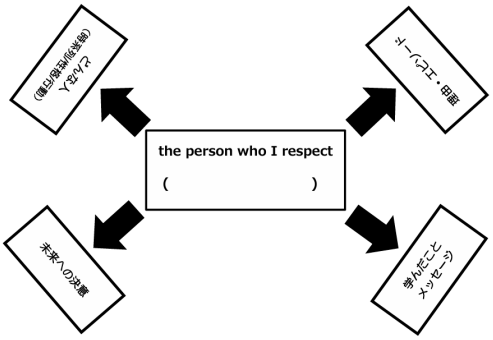
1 今学期のコラボ（「私の尊敬する人」スピーチをオンライン授業で行う・最終動画を送り合う）からあなた自身が気付いたこと、学んだことはなんですか？

相手に伝わるためには、より簡単な英語を使うことが大切だと気付きました。どこで強弱をつけるか、どこで区切りを入れるか意識することで相手により伝わりやすくなると思います。難しい単語が使えるのはかっこいいと思うが、簡単な単語でスラスラ言えることが真の英語スペシャリストだと学びました。

1学期のコメントは、自分のことで精一杯だったという印象を受けます。しかし、2学期になると、「相手意識」を持つことがコミュニケーションには重要であると考えていることがコメントからわかります。指導する教師側が「目標」を共有したことで、生徒のコメントにこのような変化が現れたのでした。

3　オンライン・ディベートを行うにあたっての布石づくり

「目標は共有した。では、どのように生徒たちをゴールに導いていけばよいのだろう。」相手意識を育てることが大事だと確認できたものの、二人の指導方法がバラバラであれば、「つけたい力」は身につきません。ディベートで、多面的に物事を考え、論理的かつ相手にわかりやすく伝えるためには、情報や考えを整理できなければなりません。また、相手の主張を理解した上で、瞬時に論点を整理し、どう反駁し、質問するかを判断しなければ、即興でやり取りはできません。これらの力をつけるためには、長期的な訓練期間が必要でした。12 月のオンライン・ディベート交流に向けて、私たちは 10 月から準備に取り掛かりました。では、2ヶ月で用意した布石とは何だったのでしょうか。



これは、中嶋先生から昨年度紹介していただいた「**探究コーラル・マップ**」です。本田先生のレポートにもあったように、「探究コーラル・マップ」こそが、オンライン・ディベート交流授業を成功させるための布石として、私たちが選んだ思考ツールでした。

「12 月に行われるオンライン・ディベートを、生徒たちにとって実りのある交流授業にしたい」私たちは、そのような強い思いで、10 月から生徒たちに「探究コーラル・マップ」を教えました。

生徒たちは、「探究コーラル・マップ」でどのような力をつけていったのでしょうか。そのハイライトシーンをご紹介したいと思います。

次は、10 月中の授業のやり取りです。

八木：「みんな、前回の飛鳥中との交流でモヤモヤしたことはあったかな」

生徒たち：「即興のコメントや質問がうまくいきませんでした」

八木：「練習には真剣に取り組めていたよね」

生徒 A：「いざ始まってみると相手がどんなことを言ってくるのか予想できず、焦りました」

生徒 B：「メモが追い付かなくて、コメントをするのにも内容がうまく整理できていませんでした」

「相手がどんなことを言ってくるのか予想できない」「メモが追い付かないから、すぐにコメントができない。」どちらも、12 月のオンライン・ディベート授業に向けて解決していかなければいけないことでした。

しかし、どんな英語も 100%理解し、即座に完ぺきなコメントをする能力を身に付けることは至難の業です。そこで考えました。

「生徒が発言する内容を教師がコントロールすることはできない。しかし、迷わないために内容をそれぞれが深掘りしていけるような項目をヒントとして示せばいいのではないか」

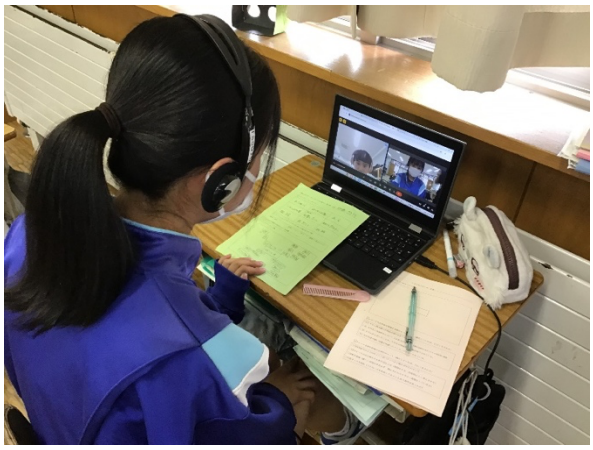
ここで、先ほど示した「**探究コーラル・マップ**」をもう一度ご覧ください。話すべき内容（同時に評価項目）が記されています。すぐに全体構想ができるように入口を示したのです。中心にあるトピック（the person who I respect）に対して、４つの内容として用意したのが次の４項目でした。

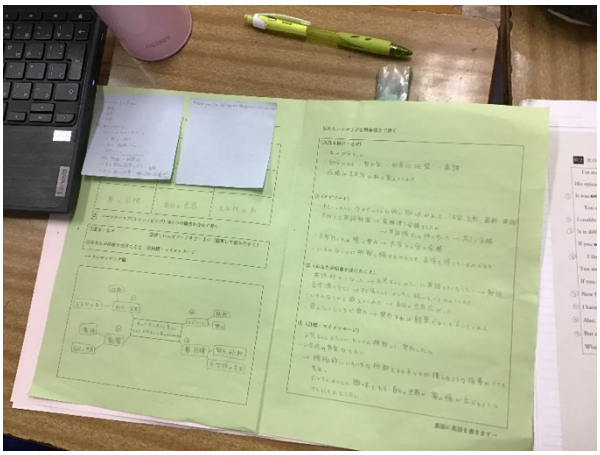
①理由、エピソード　②学んだこと、メッセージ　③どんな人（時系列/性格/行動）　④未来への決意

しかし、これらは、あくまでもとっかかりを与えただけです。後は、生徒たちが自分で内容を選び、それを自分で深掘りして行きます。自由度を高めて、学習の方向性を学習者に委ねることで、自分ごとになります。

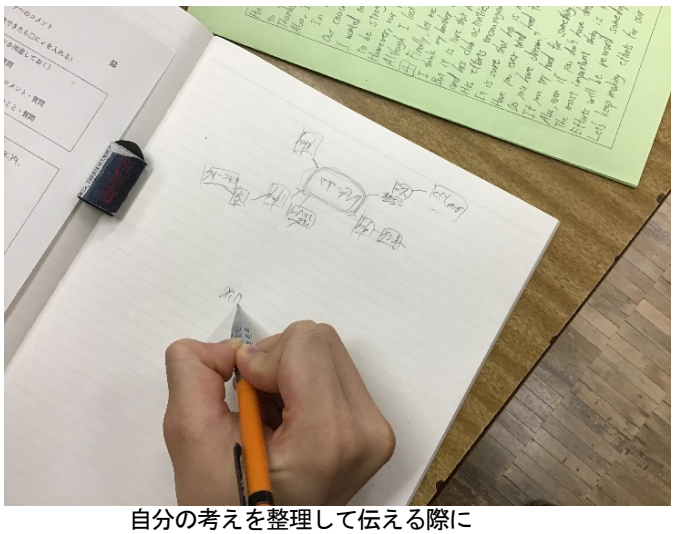
私たちがたどり着いた仮説（予測）は、「生徒が、伝えたいことをイメージしやすいマップ（big picture）を最初に描くことで、情報を整理し、内容を広げたり、深めたりできるのではないか。それに伴い、お互いの情報を楽しみながら、即興の質問力、コメント力も向上してくるのではないか」ということでした。「言いたいこと」がいくつも出てくることで、聞いている相手も「そこを知りたい」という部分を引き出そうとするようになります。

2 人の読みの通り、交流授業を通して、生徒たちは「探究コーラル・マップ」を使いながら、即興のコメントをする際、迷うことなく自分の意見を伝えることができるようになっていきました。

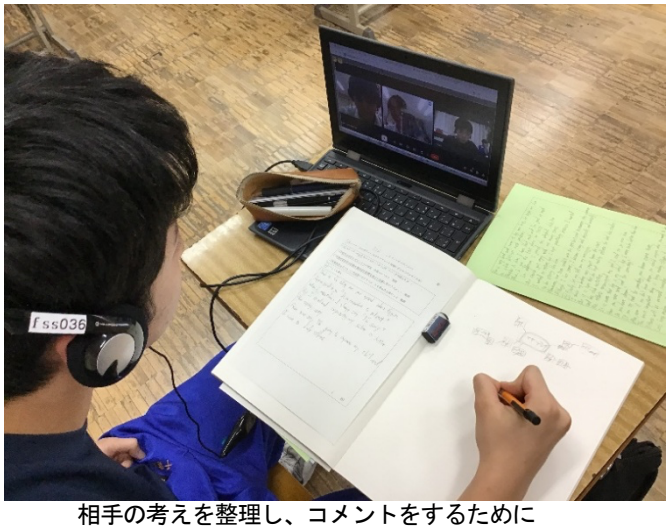




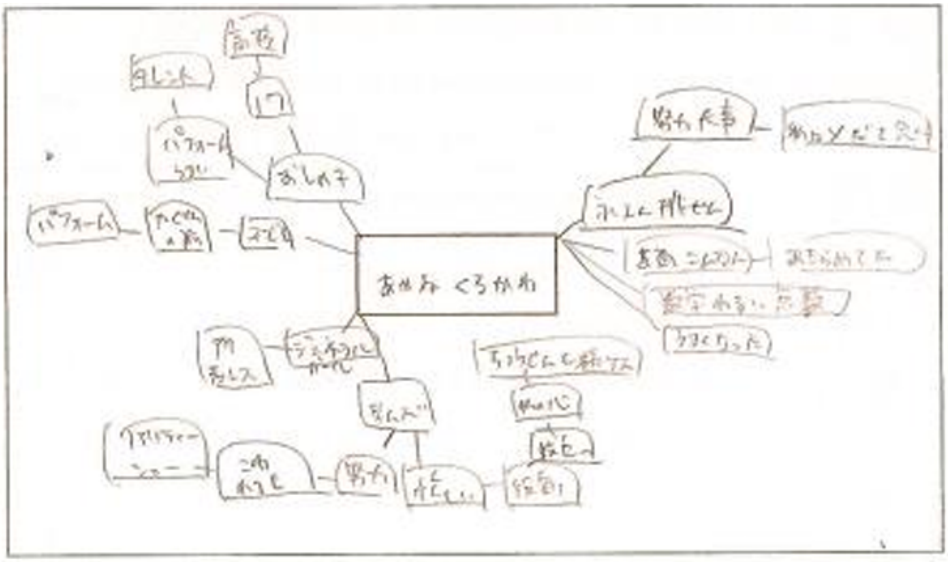
写真は、交流授業で「探究コーラル・マップ」を使用している生徒たちの様子です。



自分の考えを整理して伝える際に



相手の考えを整理し、コメントをするために



オンライン交流授業当日に生徒が書いた「階層式マッピング」から

「**階層式マッピング**」を自由自在に使用することができるようになると、生徒の思考を整理するスピードが飛躍的に伸びていきます。話す際にも、書く際にも、自信をもって自分の考えを伝えていく

ようになります。

では、１学期の交流の際、なぜ生徒は自信をもって即興のコメントをすることができなかったのでしょうか。もちろん英語力の問題もあります。しかし、それ以上に、最初に「全体構想」を練らせていなかったこと、正しい「階層式マッピング」の使い方を指導していなかったことが原因でした。「探究コーラル・マップ」は、マンダラート（広げる力を育成）と階層式マッピング（つなげる力を育成）を組み合わせたものです。この壮大なマップ（学習の羅針盤）があることで、生徒は「正しい道」を進むことができます。こうして、生徒たちは 12 月のディベートに向けて準備を進めていくことができたのです。私たちが生徒に示した「評価の観点」は次の通りです。

◆ 相手のスピーチを聞く際の観点

□①誰についての紹介だったか

□②どんなエピソードだったか（そのエピソードの何が心に残ったか）

□③影響を与えたのは何だったか

□④目標やメッセージはどんなことを伝えていたか

□⑤スピーチを聞いてどんなことを感じたか

◆ 即興のコメントをする際の観点

□①スピーチへのお礼やプラスのコメント

□②紹介されたエピソードへの意見・共感のコメント・質問

□③発表者が影響を受けたことに対するコメント・質問

□④メッセージや決意に対するコメントや自分自身の体験・質問

◆ 交流授業時の即興コメントを文字化したもの

Thank you for telling me about the person who you respect.
I heard Akane's personality and I was moved.
Also, your speech tells me that it is important to have kind.
You said, Akane can break heart for other people.
I don't think that's easy.
I feel like I'd lose everything if I broke my heart for otha.
However, I realized once again that sometimes its important to act for others.
Now, I'm enjoying my last year of junior high school with the best friends.
I want to help friends in trouble right away.
Do you want to help a friend in need?

4　オンライン・ディベートに向けて～学びは自分の教室だけではない～

11 月中旬、「**私の尊敬する人**（スピーチ）」交流授業の余韻が覚めないうちに、「オンライン・ディ

ベート」交流授業の日が迫ってきていました。生徒たちは、２年生の３学期に簡易ディベートを経験してはいましたが、まとまりのある立論をしたり、即興で反論をしたりする経験は皆無でした。ゆえに、飛鳥中とオンライン・ディベートの授業については具体的なイメージが持てずにいました。

「まずは、本番に向けて生徒たちにイメージを持たせたい。」そう思っていた折、本田先生からマイクロ・ディベート初回の動画が送られてきました。「これは本番に向けて生徒たちの心に火を付けるチャンスだ。」オンライン・ディベートに向けての授業の初日、私は早速本田先生から送っていただいた動画を生徒たちに見せました。

生徒たちは食い入るように約５分間の動画を見ていました。動画を見終わった後の教室は騒然としていました。「こんなに話せるの？」「本気で準備していかないとやばい…」「私もこんな風に話してみたい」生徒たちの声が教室中に飛び交いました。生徒たちは、本番に向けてどのように自分たちが成長していかなければならないかを、肌で感じ取ったようでした。よいモデルに接して、「やる気スイッチ」がカチッと入った生徒は、まさに「主体的に学習に取り組む態度」になっていました。その光景を見ていて、私は昨年の塾での学びが頭の中に浮かんでいました。

> 教師の授業力の向上は、優れたモデルを知ることから始まります。ゴール（育った姿）を知らない限り、正しい山に登らせることができないからです。(塾長)

目指すべき姿が、対戦相手として目の前にいる。本田先生の教室の生徒が「探究コーラル・マップ」を駆使しながらマイクロ・ディベートを行う姿は、私のクラスの生徒たちにとって大きな刺激となりました。

生徒の心に火が付いてからは、オンライン・ディベートに必要な力を具体的に付けていく必要がありました。**（指導方法については、本田先生のレポートに詳述されています。）**

まず、本田先生と私は、本番のトピックを「**大人になったら私たちは都会/田舎に住むべきだ**」に設定しました。東京と福島、異なった環境で過ごす子どもたちが、両方の立場から議論し合えばきっと自分ごととして捉え、討論は白熱するのではないかと考えました。

そこから、２人は生徒たちが議論する姿を思い描きながら、本番に至るまでに、予備練習としてどんなトピックが良いかを考えていきました。トピックを選定する際に、私たちは生徒にアンケートを取りました。私たちが決めたトピックではなく、生徒たちが自己選択したトピックを採用したいと思ったからです。

アンケート結果の中から私たちが選んだトピックは、「**私たちは夏休みを短縮すべきである**」というトピックでした。今年度、全国各地で夏休みを短縮する動きがありました。それを生徒たちはどのような立場でとらえたのだろうか。逆に、教師や親、教育委員会の立場から考えたらどうなるのだろうか。生徒たちにとって controversial であり、思わず話したくなるトピックでした。本田先生と私はそれぞれの教室で、マイクロディベートに向けて実践を始めていきました。

オンライン・ディベートに向けての準備を始めてから数日後、尚英中の教室では生徒たちからこんな言葉が出てきました。「**E が深まらない。**」

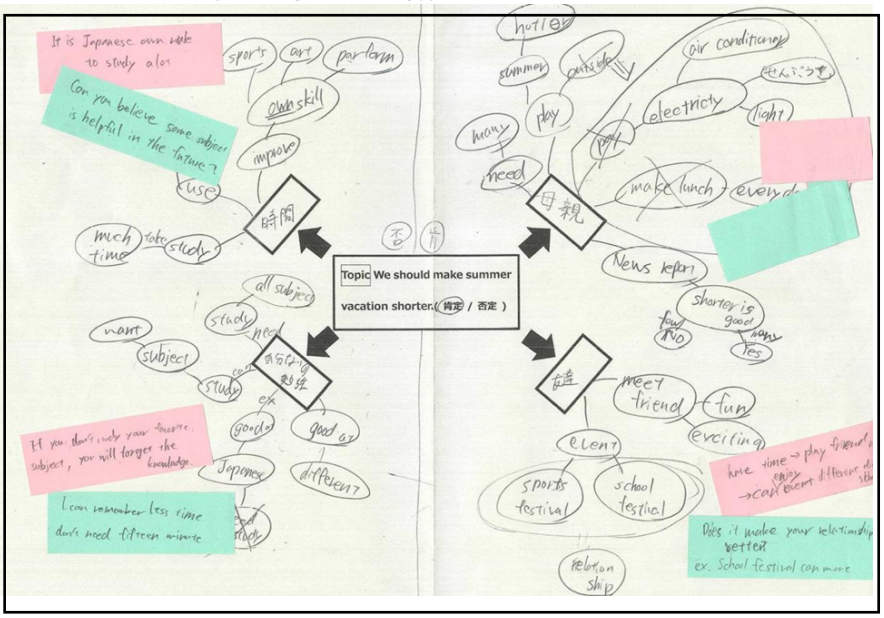
E とは何のことでしょうか。E とは OREO の E です。今回のオンライン・ディベートに向けて本田

先生と私は、立論をする際の基本的な型を決めていました。それはOREOまたはPREPでした。OREOとは、それぞれOpinion(意見)、Reason(理由)、Example/Evidence(具体例やデータ)、Opinion（意見の繰り返し）であり、文章を書くときに意識しなければならない順序です。PREPとは、それぞれ Point(主張)、Reason（理由)、Example/Evidence（具体例やデータ)、Point（主張の繰り返し）を示しており、基本的にはOREOと変わりません。

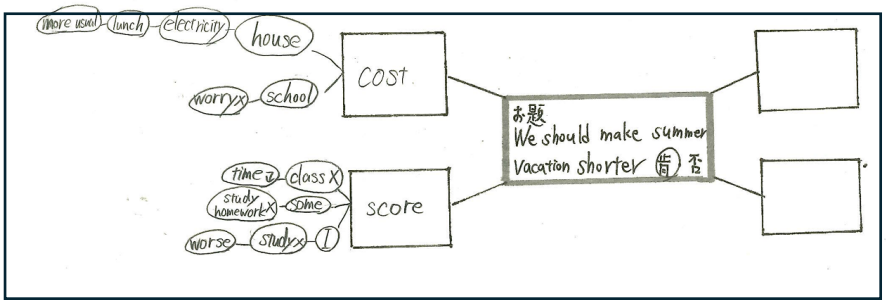
立論をする際に最も大切なことは、「根拠」がはっきりと相手に伝わることです。相手にとってイメージが浮かぶ具体例や納得のいくデータを提示しなければ、反論できないし、ジャッジの印象が悪くなります。本田先生と私は、特にE（具体例）の部分で説得力をもたせることができるように授業中に指導をしていきました。具体例がわからないと言う生徒たちに共通している問題点がありました。それは最初の構想が不十分なまま、立論の英語を書き始めていたことでした。生徒たちの「探究コーラル・マップ」に目を通してみると、論理に深まりがありませんでした。「何故か」を追求して深掘りをしていなかったのです。

そこで、私は、一つの資料を提示しました。それは、飛鳥中の生徒たちが書いた「探究コーラル・マップ」です。生徒たちはその資料を見て絶句しました。準備の段階で圧倒的な差があることを感じ取ったからです。以下の「探究コーラル・マップ」を比べてみてください。ノードの数、広がり方が随分と違うことがわかります。

飛鳥中の生徒が書いた探究コーラルマップ



尚英中の生徒が書いた探究コーラルマップ



飛鳥中の生徒が書いた「階層式マッピング」の部分は、より多面的に物事を考え、赤付箋を貼って反論の予想もていねいにされています。一方、尚英中の生徒たちは、事象を羅列しているだけで発想の深まりがありません。飛鳥中の生徒が書いた「探究コーラル・マップ」を見た尚英中の生徒たちは、口々に言いました。

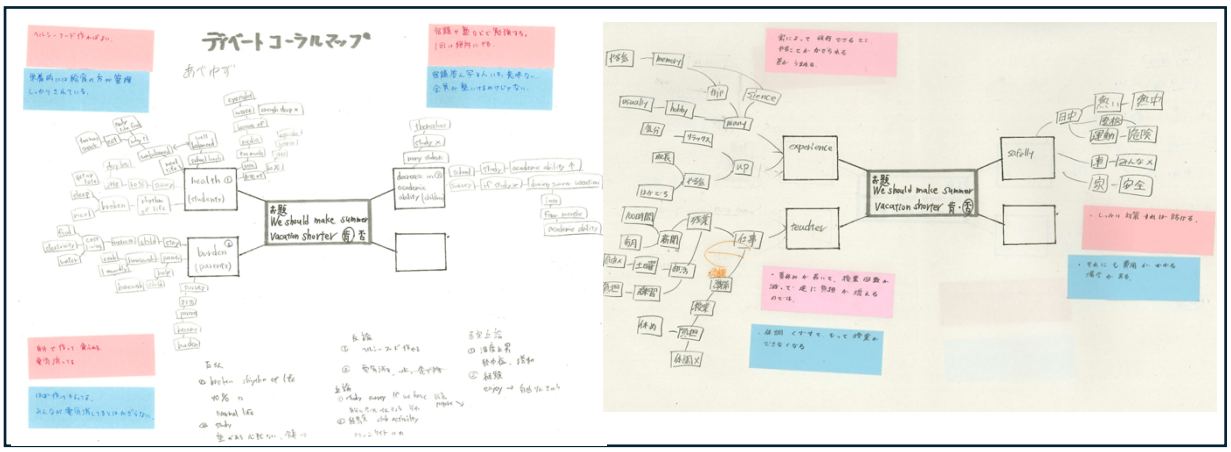
「もっと色々な角度から立論を考えなければいけないね。」
「ペアで意見を出し合って、階層式マッピングをもっと広げていこう。」

尚英中の生徒たちのやる気に再びスイッチが入りました。まさに「中間指導」の効果です。

> 途中の段階で、仲間との交流から自分の「現在地」を知り、さらに「よいモデル」に接したとき、ハッと目が覚めたように気合いが入り、こだわりをもって一気に取り組むようになり、質（内容）がみるみる高く（よくなって）いきます。
>
> (塾長)

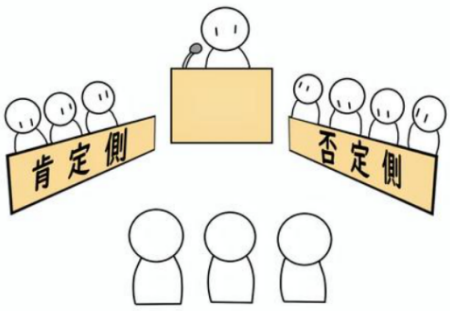
こうして、生徒たちは協働で「探究コーラル・マップ」に取り組み、立論の質がどんどん高まっていきました。

中間指導後の「探究コーラル・マップ」より



「探究コーラル・マップ」を使い、トピックについて多面的に考えるようになったことで、生徒たちは主体的に根拠となる情報(Evidence)を集めたり、相手が納得できるような具体例(Example)を考えたりすることができるようになっていきました。こうして、生徒たちはマイクロディベートに向けて徐々に準備が整い、いよいよクラス内でマイクロディベートが始まりました。

尚英中では、「私たちは夏休みを短縮すべきである」というトピックについて、3回のマイクロディベートを実施しました。1度目のマイクロディベートでは、流れや時間配分を初めて通しで体験するので、生徒たちにはあまり余裕が見られませんでした。しかし、2度目のマイクロディベートを終えたときには、流れや時間配分にも慣れ、次のマイクロディベートを楽しみにする声がクラス内から聞こえるようになりました。



「先生、今日はどのグループ同士で対戦しますか。」
「色々なグループと対戦してみたいです。」
生徒たちはマイクロディベートを通じて議論し合うことを予想以上に楽しんでいることがわかりました。

一方、本田先生の教室では、更に取り組みが進んでいました。本田先生のクラスでは尚英中よりも取り組みが先行していました。11/13日に本田学級は100人を超える参観者の前で、マイクロディベートに向けての研究授業を実施していました。多くの人の前でディベートを行うことは生徒にとって相当な緊張感があります。それをものともせずに、飛鳥中の生徒たちは立派な議論を交わしていたと報告を受けていました。私もその動画を拝見させていただきましたが、代表生徒たちが交わし合う議論と、それをジャッジする生徒たちの雰囲気に圧倒されました。

また、本田先生は、生徒たちの動機を更に高めるために、「飛鳥シリーズ」という対戦型のマイクロデ

ィベートを実施しました(詳細については割愛します)。勝敗がはっきりと決めることで、生徒たちの立論の中身が濃くなっていくだけでなく、ジャッジの力も大きく伸びていきました。

「この様子を生徒に伝えたい」

そう思った私は、生徒たちに授業の動画の一場面を見せました。案の定、それを見た生徒たちの表情がみるみる変わっていきます。

「すごくレベルが高い…。」

「よくあんなに意見が言えるな…。」

その様子をみて、私は生徒たちに伝えました。

「あんな風に大舞台で議論ができるようになりたいね。」

生徒たちは大きくうなずきました。そこで私は、生徒たちのマイクロ・ディベートのレベルを更に上げるために、飛鳥中の生徒が書いた立論（一部編集）とジャッジシートを見せました。

飛鳥中の生徒の立論をプリントに打ち直したもの

O: I think we should make summer vacation shorter.

There are two reasons / to support my opinion.

R: The first point I would like to mention is / we don't need such a long vacation.

E: Have you ever thought / why summer vacation is longer than other vacations?

I'll tell you / why summer vacation is long.

In the past(昔は), / children had to help their parents work / on the **farm**(農場) / in summer.

But, **at present**(現在は), / there is not so many farm in big cities / and **most**(ほとんどの) students don't have to help their parents work on a **farm**.

Today is different from the **past**(過去).

Too long vacation is not **necessary**(必要な) / for us.

R: The second point I would like to mention is / there are some students / who feel **nervous**(不安な) / before going to school / after a long vacation.

E: I think that is because / they can't keep their communication skills during summer vacation.

(習い事) and activities.

E: Most students join a club activity on weekdays, / so they don't have time / to join other **lessons**(習い事) or activities.

During summer vacation, / we have a long free time, / so it will be a good chance / to join them.

In my case(私の場合は), / I was a member of **abacus school**(そろばん塾), / but I couldn't join it / because I had to join the club activity at school.

However, during summer vacation, / I had much more free time / than weekdays, / so I could go to abacus school many times.

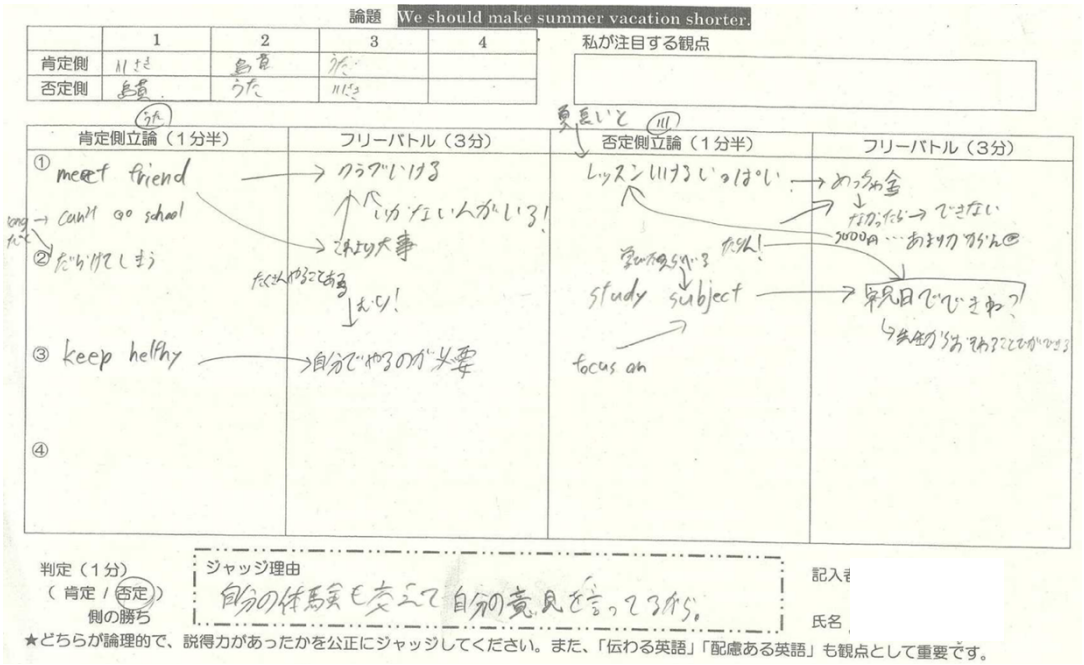
That's why, / summer vacation **positively affected**(プラスの影響を与えた) my skills of abacus.

It will **make a big difference**(大きな違いを生む) / because most students give up their **lessons**(習い事) / **due to**(～が原因で) a busy school life.

It will be an important experience / for students / to keep joining lessons or activities / which they can't join on weekdays.

Otherwise(もしそうでなければ), / we will give up something / on the way.

飛鳥中の生徒のジャッジシート



このタイミングで飛鳥中の生徒の作品を提示した理由も、昨年の学びからです。

よいモデルを、いつ、どのように示せばいいかは、学習者の心理状態を踏まえ、入念に準備します。ほぼ完成に近い段階で示してやると、「もう少し頑張ってみたい」と考えるので、いい意味で「負荷」となります。(塾長)

生徒たちが、「だんだん伸びてきた。」と実感が湧いてきたところで、よいモデルを示してあげると、生徒たちは俄然やる気を見せ、上達していきました。生徒たちは次の３つのことに気づいたのです。

① よい立論は、難しい表現を使わずに理路整然と書かれていること。 ② 具体例が自分たちの生活からイメージできるものは、相手に伝わりやすく説得力があること。 ③ よい立論はよいジャッジを育てること。

これらの気づきによって、３度目のマイクロ・ディベートの質が格段によくなりました。３回目の実施後に生徒たちが提出した立論シートからも、量・質ともに大きな変化が見られました

尚英中の生徒が書いた立論シートより

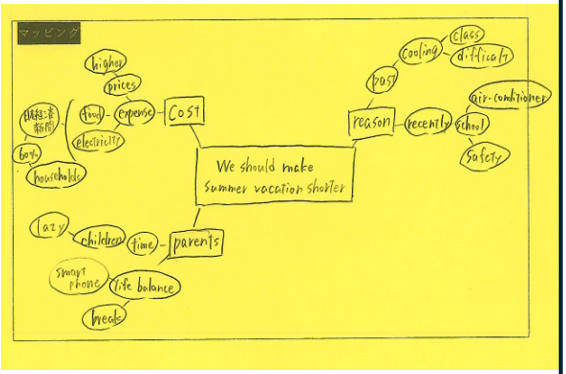
I agree with the idea that we should make summer vacation shorter.
There are three reasons to this opinion.
The first point I want to tell you is that cost.
Prices getting higher.
According to the "日本経済新聞", about 60% of households said summer vacation should be shorter.
The most common reasons were "costs a lot of money like food and electricity expense.

The second point I want to tell you is that parents are worried about two things.
First, "children spend lazy time".
Second, "Children's life balance is affected".
Most elementary and junior high school students have smartphone.
Long vacations make time that using smartphone.
As a result, children's life balance is break.

Last summer, I spend lazy time and I didn't study much.
That's why, my test scores were down.
The third point I want to tell you is that reasons for summer vacation.
In the past, there were no cooling facilities, so it was difficult to take classes.

However, now most school have air-conditioner, so we can take classes safety.
Also, some school taking measures to prevent heat stroke.
Only during summer my school allow students to wear jerseys and bring sports drinks.

For these three reasons, I agree with the idea that we should make summer vacation shorter.



「私たちは夏休みを短縮すべきである」というトピックを通じて、尚英中の生徒は、飛鳥中の生徒から数回学ぶ機会を得ることができました。特に、中間指導のあとの生徒の変化は目覚ましいものがありました。学びは自分の教室だけではありません。その気になれば、どことでもつながることができます。本田先生の教室から学んだことで、尚英中の生徒たちはマイクロ・ディベート本番に向けて自信をつけていきました。

５　オンライン・ディベートを通じて生徒たちが学んだこと

12 月 17 日は、飛鳥中とのオンライン・ディベートの日でした。(3 年 1 組は翌日実施)
朝、教室に行くと、生徒たちはいつもより早く登校し、空き部屋を使ってグループで模擬練習をして

いました。オンライン・ディベートを成功させたいという意気込みがひしひしと伝わってきました。

「絶対に勝ちたい！」と意気込んでいる生徒たちに、私は伝えました。

「ディベートに勝てばそれは嬉しいかもしれない。でも大事なのは、いつも言っている通り、相手にわかるように伝えることと、相手の意見を受容することだからね。」

今回のオンライン・ディベートを通じて、本田先生と私が生徒たちに望んでいたことは、勝ち負けにこだわることではありません。英語力を伸ばすことだけが目的というわけでもありません。
以下は、本田先生の単元型指導案からの引用です。

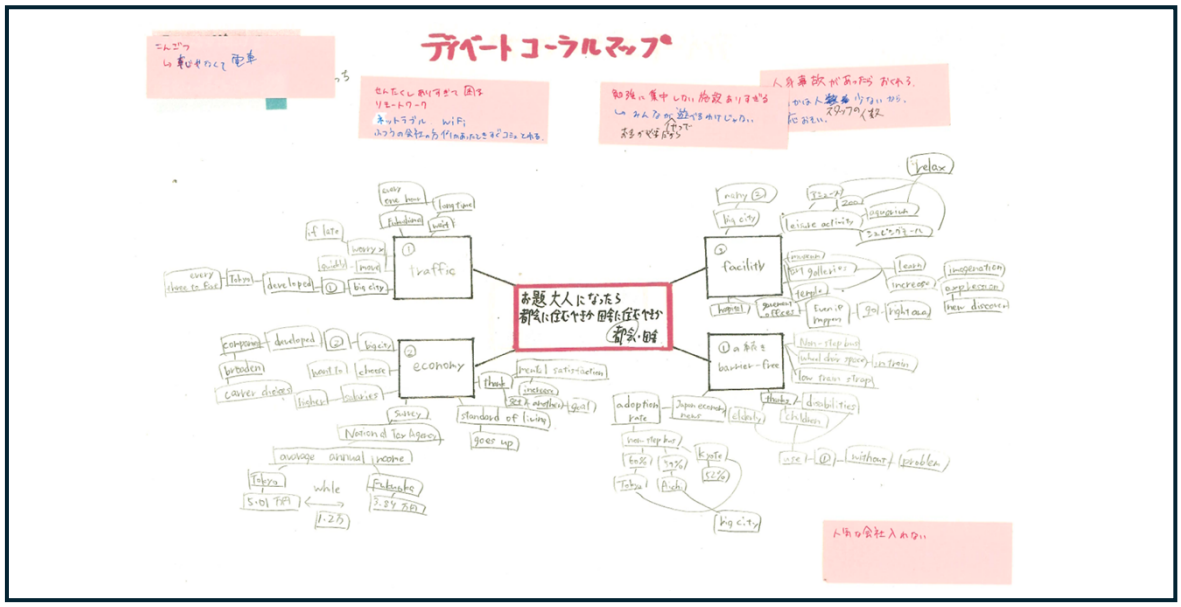
> つまりディベートは、広く、深く英語力を養うだけでなく、教育の目標である「人格の完成」に寄与する活動と言える。ディベートの活動を通じて、異なる立場や観点から考えることによって物事の多面性に気づき、他者への理解や共感を大事にしながら、客観的な根拠に基づいて主張ができる生徒を育てたい。さらに、相手の発言を受容し、尊重し理解していることを示せる人間性にも寄与したいと考えている。そうやって言葉を大切に扱うことで、受験期を乗り越える互恵的な人間関係も構築できるようにしたい。

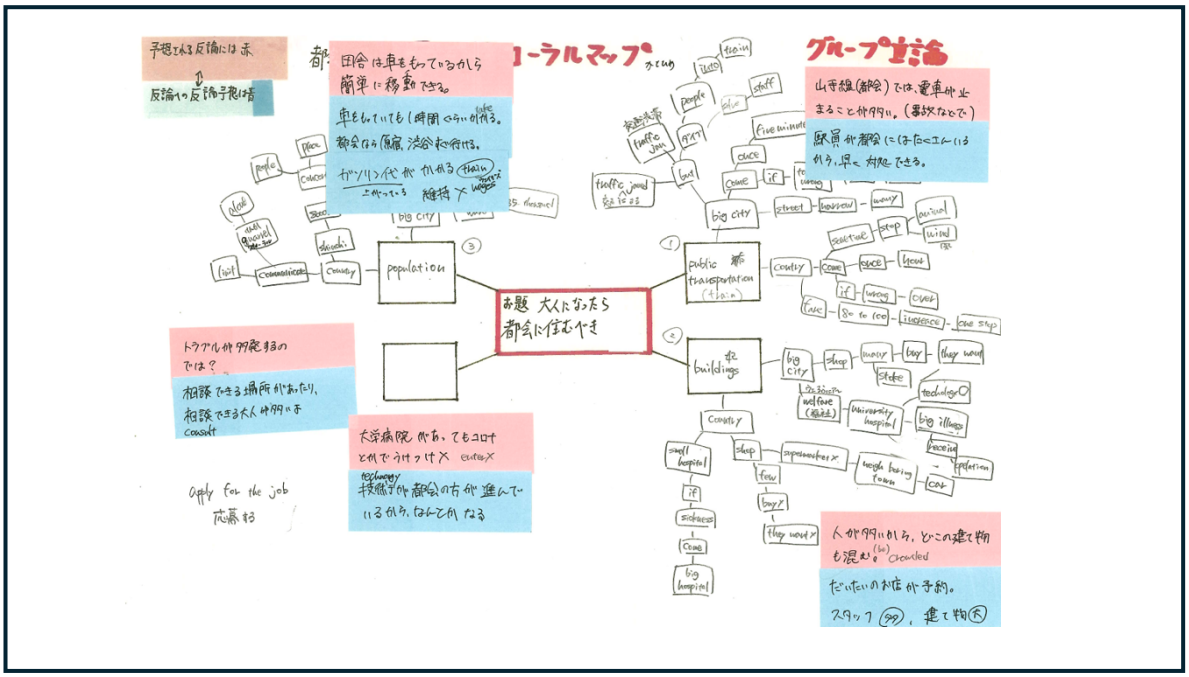
私たちが目指していたものは、交流授業を通じた「**人間的な成長**」でした。交流授業が終わった後に、どれだけの生徒から「**相手に対する敬意・感謝**」のコメントが聞けるか。これまでのコラボレーションの真価がこの交流授業において問われていました。「どんな交流授業になるのだろう」。３時間後にせまったオンライン・ディベートに向けて、生徒たちも私も、期待に胸を膨らませていました。

10 時 45 分。飛鳥中の生徒たちがミーティング・ルームに次々に入ってきました。本田先生も私もその場面を、固唾をのんで見守っていました。オンライン・ディベートは、各グループの司会の声で始まっていきました。３度目の交流授業となると流れもスムーズでした。本田先生と私は、司会原稿も含め、生徒たちがオンライン・ディベートに集中することができるように、入念に流れを確認していました。

生徒たちの成長は、英語力のみならず、オンライン授業の進行のスムーズさにも表れていました。今回のオンライン・ディベートでは、お互いに立論シートの交換を行うことはしませんでした。可能な限り即興の場面を作り出すことが目的でした。そして何よりも、交流授業が始まるまで相手の立論の内容がわからないことが、生徒たちの準備をより入念なものに導きました。また、今回のオンライン・ディベートは２対２の対戦だったため、「探究コーラル・マップ」を作成する段階で、協働がより活性化しました。

尚英中の生徒が準備した立論シートより





生徒たちの「探究コーラル・マップ」のスケッチを見てみると、入念に準備されていることがよくわかります。赤色の付箋は予想される反論、青色の付箋(または青字)は反論に対する反論を表しています。生徒たちは、トピックを自分たちで深掘りしていき、多面的に立論と反論を考えようとしていたのでした。準備期間を生徒たちは次のように振り返っていました。

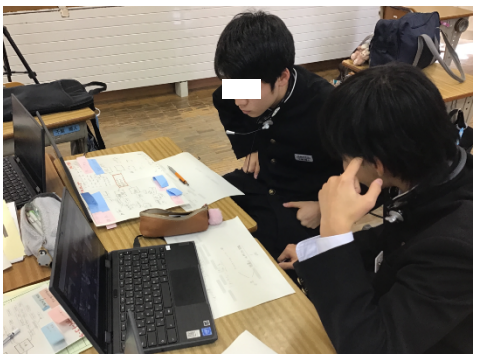
立論を書くのも、言うのも得意だと思った。別視点からの論も考えて言えるようになった。反論は最初ぜんぜん言えなかったけど、回数を重ねてどんどん言えるようになった。でもまだ完ぺきに言えないから、論点にしっかり合った反論をできるようにしたいと思った。

私は、反論が苦手だったので、ミニディベートをやっていろんな意見がきけて参考になりました！

また、どんな立論だったら強いかなど書き直しを繰り返えして良い立論ができたと思う。

自分とは違う立論や反論を読むことで、新しい視点を持つことができたり、表現の仕方の幅が広がりました。

反論をしてもらうことで、ぬけ目の部分をより強く固めて本番に挑むことができました。



オンライン・ディベートが始まって私が注目したのは、インターバルの時間でした。相手が主張してから反論までに１分間の相談タイムがあります。そのたった１分間の間にパートナーと相手が主張した内容を確認し、どちらがどのように反論するのかを確認しなければいけません。生徒たちはものすごい集中力で作戦を立てていました。これは、１対１のマイクロディベートでは見られなかった協働の場面でした。

反論のターンが回ってくると、生徒たちは「探究コーラル・マップ」をフルに活用しながら、相手に考えを伝えていきました。相手に伝わるように言葉を選び、反応を確認しながら伝えているグループが多く見られました。

生徒たちの振り返りからもそのような意見が見られました。

evidence や forexample などの根拠を入れて、説得することが大切だと思いました。上位の人とディベートを組むことで、即興性を高められることができるし、仲間と反論を考えることでより強力なディベートをすることができました。

難しすぎる英語を使わないで、相手に伝わりやすい表現を使おうとした。

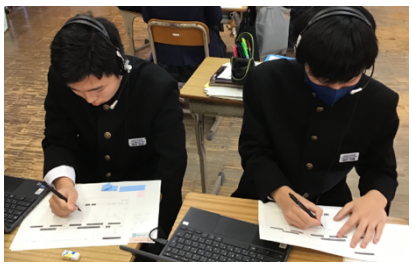
相手に伝わるように文法をかくにんしたり、難しい英語を使わないようにした。仲達に伝わらなことがあったらなおしたりすることができた。

交流授業を成功させる際に最も大切なことは「**相手意識**」です。３度の交流授業（それまでの準備）を含めて生徒が成長した部分は「**相手を大切にする気持ち**」が育っていったことでした。オンライン授業を通じて養えるのは、生徒の英語力だけではない。そう確信しました。

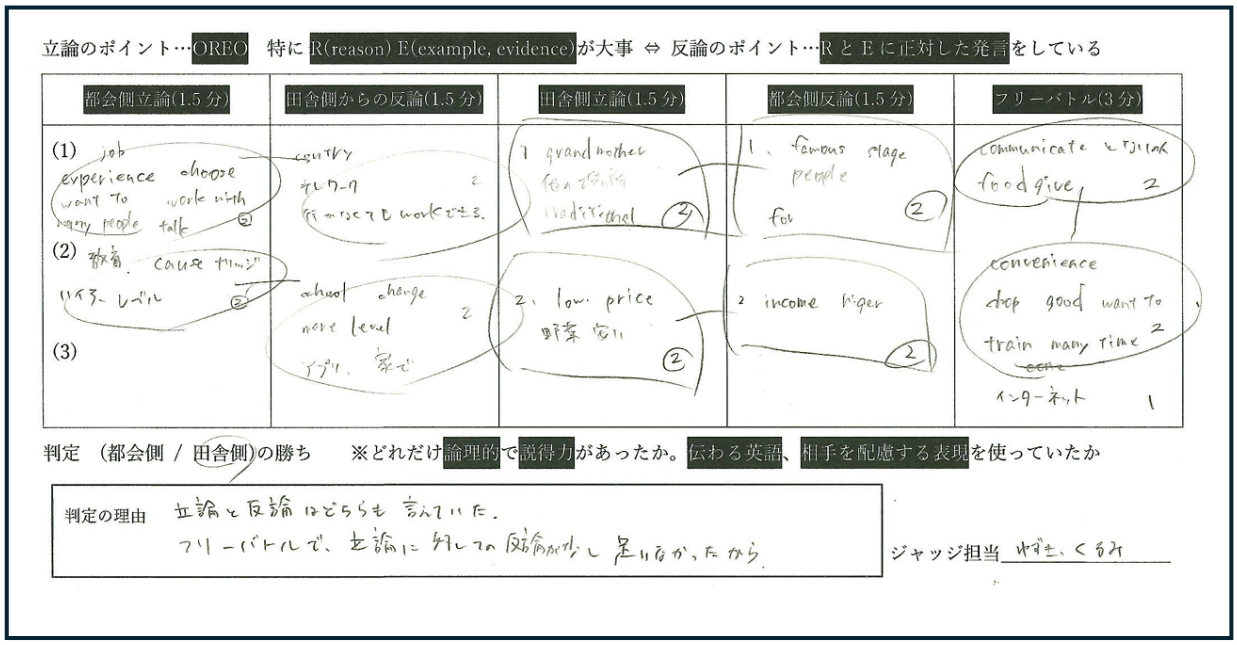
もう１つ注目した点は、ジャッジの生徒たちの伸びでした。オンライン・ディベート当日も、話し合いを聞きながら、ジャッジ・シートに次々とメモが記入されていきました。どのグループのジャッジもスムーズにメモを取れていたことが印象的でした。マイクロ・ディベートを始めた頃は、相手の立論が理解できずに、要点の整理に苦労する生徒が続出しました。また、立論が論理的か、反論が立論に対して正対しているのかを正しくジャッジできない生徒も多くいました。しかし、何度もジャッジを体験していくことで、生徒たちは２つの点において学びを深めることができたように思います。

□① ツールを駆使して立論の要点をメモしていくことにより、リスニング力が向上した。
□② 論理的に物事を判断する習慣が身に付いた。

生徒が交流授業の当日に使用したジャッジシートをご覧ください。英語が得意な生徒たちは上手にフローを整理し、主張に価値づけをし、正しい判定をしていることがわかります。また英語が得意ではない生徒も、これまでの学びを生かして得意な生徒に近い書き方をしています。



英語が得意な生徒のジャッジシート



立論のポイント…OREO　特に R(reason) E(example, evidence) が大事 ⇔ 反論のポイント…R と E に正対した発言をしている

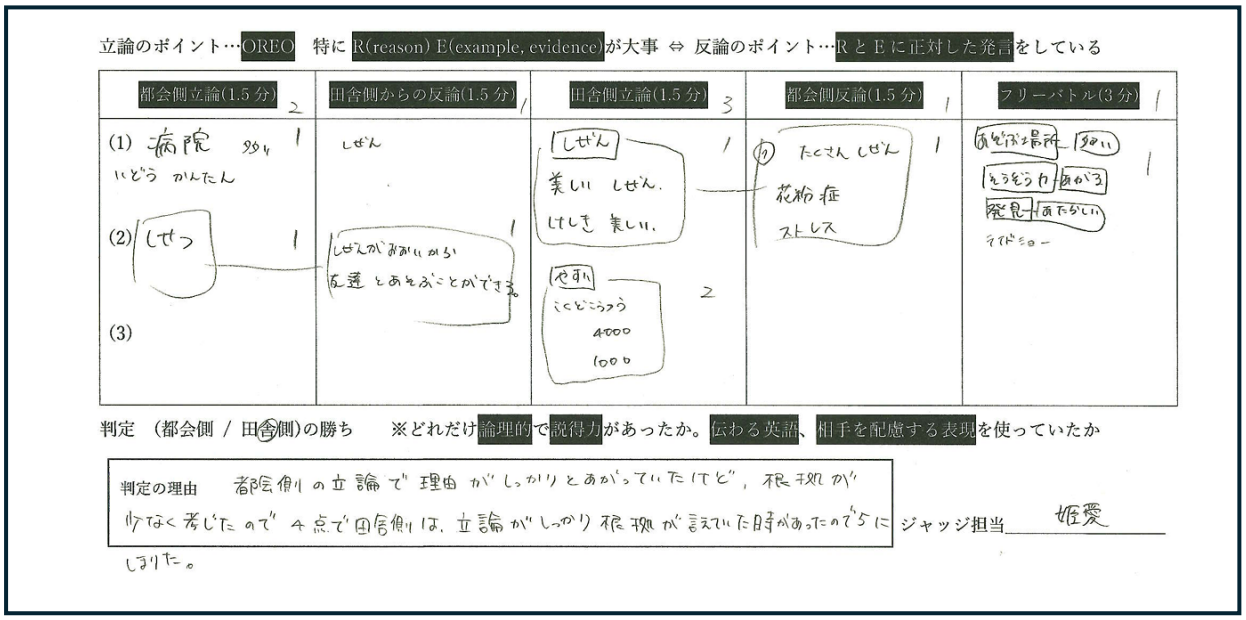
都会側立論(1.5 分)	田舎側からの反論(1.5 分)	田舎側立論(1.5 分)	都会側反論(1.5 分)	フリーバトル(3 分)
(1) job experience choose want to work with many people talk ②	counter テレワーク 行かなくても work できる。 2	1 grandmother 使わなくなった traditional ②	1. famous stage people for ②	communicate と talk food give 2
(2) 教育 cause チャンジ いろろ レベル ②	school change more level アプリ、家で 2	2. low price 野菜 安い ②	2 income higer ②	convenience drop good want to train many time 2 ~~come~~ インターネット 1
(3)				

判定　(都会側 / 田舎側)の勝ち　※どれだけ論理的で説得力があったか。伝わる英語、相手を配慮する表現を使っていたか

判定の理由　立論と反論はどちらも言えていた。
フリーバトルで、立論に対しての反論が少し足りなかったから。

ジャッジ担当 やぎ、くるみ

英語が得意でない生徒のジャッジシート



立論のポイント…OREO　特に R(reason) E(example, evidence) が大事 ⇔ 反論のポイント…R と E に正対した発言をしている

都会側立論(1.5 分) 2	田舎側からの反論(1.5 分) 1	田舎側立論(1.5 分) 3	都会側反論(1.5 分) 1	フリーバトル(3 分) 1
(1) 病院 多い 1 いどう かんたん	しぜん	しぜん 1 美しい しぜん。 けしき 美しい。	(1) たくさん しぜん 1 花粉症 ストレス	自然が最高 多い 1 そうそう 自然がある 発見 あたらしい そだち。
(2) しぜっ 1	しぜんがおおいから 友達とあそぶことができる。 1	やすい 2 こどもこうつう 4000 1000		
(3)				

判定　(都会側 / 田舎側)の勝ち　※どれだけ論理的で説得力があったか。伝わる英語、相手を配慮する表現を使っていたか

判定の理由　都会側の立論で理由がしっかりとあがっていたけど、根拠が少なく考えたので4点で田舎側は、立論がしっかり根拠が言えていた時があったので5にしました。

ジャッジ担当 姫愛

相手の主張を正確に理解する力、物事を多面的に考えようとする力は、ディベートをしている生徒だけが伸びていくのでなく、ジャッジをすることによっても向上していくことがわかりました。

オンライン・ディベートの時間はあっという間に経過していきました。ディベートを終えた生徒たちからは、満足した表情、悔しそうな表情、安堵の表情、様々な様子が伝わってきました。３度の交流を終えた生徒たちは、スクリーンに映る相手に向かって笑顔で声をかけあっていました。東京と福島の学校の生徒たちがオンラインでつながる。決して、打ち上げ花火のイベントではなく、回数を重

ねることによって（またそれに向けて準備をしていくことで）、生徒たちの心と心をつないでいきました。授業終了後、生徒たちからは様々な言葉が出てきました。

「もう交流授業やらないのですか？」
「飛鳥中のおかげで、やる気爆上がりだった。」
「悔しかったからもう一度やりたい。」
「こんな経験って、福島ではうちらだけだよね。」

交流授業翌日に提出された振り返りシートには、飛鳥中との交流を通じて成長を喜ぶコメント、相手に対する敬意・感謝を表すコメントが数多く見られました。

7 尚英中から飛鳥中、飛鳥中から尚英中の生徒に向けて、メッセージをお願いします。

今回も私たちのためにたくさんの準備をしてくれてありがとうございました。飛鳥中のみなさんがいてくれたからこそ私たちもよりレベルを上げることができたと思います。受験勉強も一緒に頑張りましょう！応援しています!!

3回にわたるオンライン授業ほんとうに楽しかった！東京の中学生と話す機会なんてめったにないから、すごく貴重な時間になった。話してみたことで、たくさんの気づきや学んだことがあってとても良い経験になった。本当にありがとう!! 受験お互いがんばろうね～!!

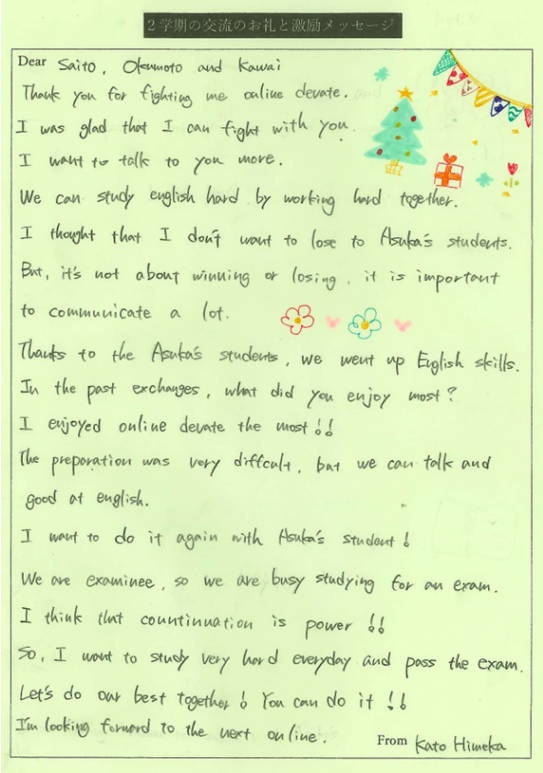
飛鳥中のみなさん!! ディベート対戦ありがとうございました!!
飛鳥中と対戦することで「飛鳥中に負けたくない，勝ちたい。」という気持ちが高まり、私の英語力が伸びている一つの理由になっています。受験勉強で忙しいと思いますが、他の学校より「英語は得意だ」という気持ちで頑張っていきましょう!! 私も頑張ります!! fight!!
すごくハイレベルで驚きました！
私にとって有益な時間でした。飛鳥中のみなさんにとってもそうであれば嬉しいです。私が文を考えている時や口に出せなかった時も待っていてくれて接しやすかったし、落ちついて考え、話す事ができました！

飛鳥中との交流授業は、尚英中の生徒たちの心に多くの成長をもたらしたのでした。

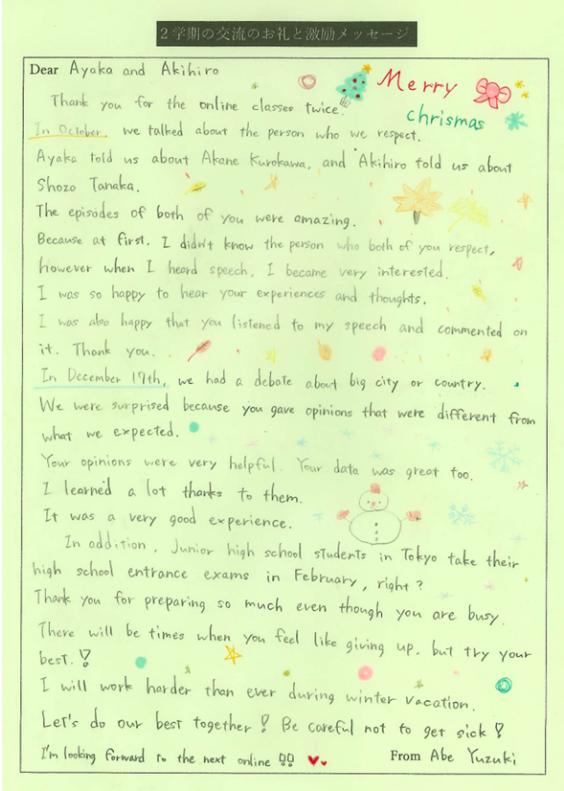
6　終わり方が大事～感謝の気持ちを相手に伝える～

12 月 19 日、尚英中の生徒たちは、教室であるものを見せ合っていました。少し早いクリスマスプレゼントでしょうか？いえいえ、違います。以下の手紙をお互いに見せ合っていたのでした。

尚英中から飛鳥中に向けて書いたお礼の手紙より


2学期の交流のお礼と激励メッセージ

Dear Saito, Okamoto and Kawai
Thank you for fighting me online devate.
I was glad that I can fight with you.
I want to talk to you more.
We can study english hard by working hard together.
I thought that I don't want to lose to Asuka's students.
But, it's not about winning or losing. it is important
to communicate a lot.
Thanks to the Asuka's students, we went up English skills.
In the past exchanges, what did you enjoy most?
I enjoyed online devate the most!!
The preparation was very difficult, but we can talk and
good at english.
I want to do it again with Asuka's student!
We are examinee, so we are busy studying for an exam.
I think that countinuation is power!!
So, I want to study very hard everyday and pass the exam.
Let's do our best together! You can do it!!
I'm looking forward to the next online.
From Kato Himeka


2学期の交流のお礼と激励メッセージ

Dear Ayaka and Akihiro
Merry chrismas
Thank you for the online classes twice.
In October, we talked about the person who we respect.
Ayaka told us about Akane Kurokawa, and Akihiro told us about
Shozo Tanaka.
The episodes of both of you were amazing.
Because at first, I didn't know the person who both of you respect,
however when I heard speech, I became very interested.
I was so happy to hear your experiences and thoughts.
I was also happy that you listened to my speech and commented on
it. Thank you.
In December 17th, we had a debate about big city or country.
We were surprised because you gave opinions that were different from
what we expected.
Your opinions were very helpful. Your data was great too.
I learned a lot thanks to them.
It was a very good experience.
In addition, Junior high school students in Tokyo take their
high school entrance exams in February, right?
Thank you for preparing so much even though you are busy.
There will be times when you feel like giving up. but try your
best.!
I will work harder than ever during winter vacation.
Let's do our best together! Be careful not to get sick!
I'm looking forward to the next online
From Abe Yuzuki

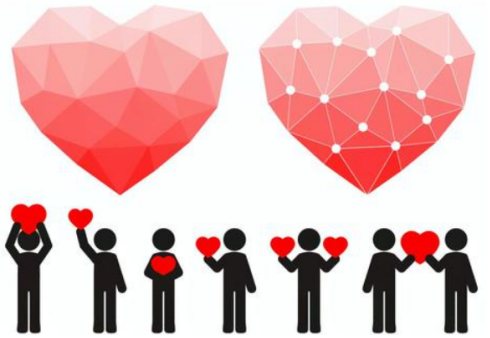
尚英中の生徒たちは、オンライン・ディベートが終わった上記の「お礼の手紙」を飛鳥中の対戦相手に向けて書いていたのです。私は、ディベートが終わったあとの振り返りの時間に生徒たちと次のようなやり取りをしていました。

八木：「オンライン・ディベートはどうだったかな？」
生徒：「レベル高かったです。」「負けて悔しかった。」「もう一度やりたいです。」
八木：「みんな、この交流を通じて成長したと思う？」
生徒：「はい！！」
八木：「じゃあみんな、次にやることは分かっているかな？」
生徒：「振り返り用紙の記入をしっかり行うことです。」
八木：「そうだね、それはとても大事。でももっと大事なことは？」
生徒：「…。」
八木：「東京の中学校は、３学期に入るとすぐに高校受験が始まる。１・２月は全員が教室にそろう機会も少なくなる。受験直前の貴重な時間を、尚英中との交流のために全力で費やしてくれていだんだね。」
生徒：「そうだったんですか！？」
八木：「幸せなことだよね。他県の中学生同士が、お互いを高めるために交流し合えることは。」
生徒：「はい、めちゃくちゃ力がついたと思います。」

このやりとりの後、生徒は各々の対戦相手に向けて手紙を書き始めました。受け取った相手が喜ぶ姿を想像しながら。

冒頭で私は、昨年中嶋先生から教わった大切なことについてお伝えしました。

「誰かの幸せを願って成果物を用意する」

自分が成長する機会を手に入れられたのならそれを自分のものだけにせずに、お世話になった人たちに報告をする。成果物は、次の世代がさらに成長していくためのバトンとする。中嶋先生からは、英語教師としてではなく、人として大切なことを教えていただきました。このレポートも、生徒が書いた手紙と同様、昨年お世話になった先生方への「感謝の気持ち」です。伝わりにくい部分がありましたらお詫び申し上げます。

本田先生と私が書いたこのレポートで、お読みいただいた方に少しでも私たちの気持ちが伝わり、少しでもホッとする気持ちになっていただけたのであれば、この上ない喜びです。最後までお読みいただき、ありがとうございました。